

# 港南区防災ガイド「中学生編」



## の内容を追加しました！

港南区では災害に強いまちづくりを推進していくため、平成28年3月に「港南区防災ガイド《中学生編》」を作成し、授業等で活用しています。この度、地震に加え近年激甚化する風水害の内容を新たに盛り込み、地域住民、港南区中学校長会、港南消防署、港南区役所が協働で改訂しました。

### 改訂のポイント

- ① 港南区の地形的特徴とそこから起こりうる危険を記載し、身近なところに危険が潜むことをイメージしやすいよう工夫
- ② いざという時に適切に避難するために必要な情報を予め確認することの重要性を記載  
情報を調べやすいようにQRコードを記載
- ③ 集めた情報に基づき適切な避難行動で安全を確保するとともに避難時の注意点を記載

【サイズ】A4サイズ8枚

【作成部数】12,000部（うち5,000部は区内の全中学校に配付）

【配布場所】港南区役所または港南区ホームページ

【ホームページ】[https://www.city.yokohama.lg.jp/konan/kurashi/bosai\\_bohan/saigai/default20190807.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/konan/kurashi/bosai_bohan/saigai/default20190807.html)

## 内容その1 身近なところに潜む危険を認識！

市内における浸水被害の画像や港南区の地形的特徴とそこから起こりうる危険を記載し、身近なところにも危険が潜むことをイメージしやすいようにしました。

平成30年7月豪雨や令和元年台風15号など、近年大雨・暴風の被害が各地で発生しています。家にいる時や、外出中に強い雨や風が来たときに、まず自身の安全を守るためにはどのような行動をとるべきか考えてみましょう。

また、台風や大雨は発生や規模が事前に把握することがある程度可能であり、被害を少しでも抑えるためにも正確な情報を把握し、事前の備えを十分行い、的確な避難行動をとることが大切です。



平成26年 いたち川の浸水被害(横浜市内)

### 港南区の特徴

港南区の地形は、大岡川や平戸永谷川の上流の谷と台地が細かく入り組んでいます。区南端では円海山周辺から大岡川流域にかけて、西側では平戸永谷川周辺の低地から舞岡公園などの丘陵地にかけて起伏のある地形を形成しています。

#### ⚠️ 小さい河川が多い!!

川幅が狭いため、短時間でも大雨が降った場合は川の水位が上昇しやすいのが特徴です。

⇒急な雨が降った場合はすぐに川から離れよう。

#### ⚠️ 遊水池に注意!!

(平戸永谷川遊水池)

普段、広場として利用している遊水池は大雨時には増水した河川の水を一時的に貯めておきます。

⇒大雨が降ってきた場合はすぐに離れよう。

#### ⚠️ がけや急斜面が点在している!!

住宅地内のがけや急斜面があります。

⇒がけ崩れの前兆現象や異常を感じたらすぐに離れよう。

・がけに割れ目が見える  
・がけから水が湧き出ている  
・がけから小石がバラバラ落ちてくる

\*危険な状況になっていることを周りの人にも伝えて、安全な場所から区役所や消防署に連絡しましょう。

裏面あり

## 内容その2 必要な情報を予め確認！

各種ハザードマップを紹介し、自宅や通学路など、普段生活している場所にどのような危険（がけ崩れの危険性や河川の水が溢れた場合の水深等）が潜むかを確認できるようにしました。また、台風や大雨の動向はある程度は把握できるため、最新の気象情報（降雨の見通し等）や避難情報（避難場所開設情報等）を確認できるサイトを案内しました。これらの情報を調べやすいようにQRコードを掲載しました。

**確認してチェックしましょう！**

**土砂災害ハザードマップ**  
集中豪雨や台風に伴う豪雨などにより、がけ崩れが発生したときに被害を受けるおそれのある区域を示したマップ  
 自宅や学校、通学路が土砂災害警戒区域に入っていたらチェック

**洪水ハザードマップ**  
大雨が降った時に、河川の水があふれたり堤防が決壊した場合の浸水区域や水深を示したマップ  
 自宅や学校、通学路が洪水浸水想定区域に入っていたらチェック

**内水ハザードマップ**  
大雨により下水道管や水路がいっぱいになった時に、マンホールや雨水ますから水があふれた場合の浸水区域や水深を示したマップ  
 自宅や学校、通学路が内水浸水想定区域に入っていたらチェック



港南区 ハザードマップ

わいわい防災マップ

※住所から検索できます

**風水害の避難場所**

避難場所	開設する状況			対象河川
	1	2	3	
1 港南地区センター	○	○	○	/
2 野田地区センター	○	○	○	
3 永谷地区センター	○	○	○	
4 永谷小学校	○	○	○	平戸水谷川・岸谷川
5 永谷高校	○	○	○	
6 日下小学校	○	○	○	大栗川
7 横浜南陵高校	○	○	○	大栗川・日野川
8 永谷台地区センター	○	○	○	
9 港南台地区センター	○	○	○	
10 永野小学校	○	○	○	
11 板間小学校	○	○	○	
12 丸山小学校	○	○	○	
13 浜磯館 (横浜南陵用)	○	○	○	



※状況は河川ごとの水位状況等により、開設の判断をします。  
※対象河川が複数の避難場所は、いずれかに避難指示等が発令された場合に開設します。

大雨 避難場所 港南区

**横浜市防災情報ポータル**  
横浜市内に出されている避難情報、避難場所の開設状況等を確認できます。

**Yahoo! 防災速報**  
アプリで登録すると、横浜市からの防災緊急情報が届きます。

**港南区 安全・安心情報メール**  
事前に登録すると気象警報や避難情報など緊急なお知らせが届きます。

他にもテレビやラジオなどのツールを利用して情報を入手しましょう。情報を入手したら、家族や周りの人に教えてあげよう。

## 内容その3 適切な避難行動で安全確保！

ハザードマップや最新の気象・避難情報をもとに、余裕をもって避難できる場合は「水平避難」、避難する余裕がない場合は「垂直避難」「屋内避難」など、状況に応じた適切な避難行動で安全を確保できるように、わかりやすくイラストで説明しました。また、非常時の持出品を用意しておくことや、長靴ではなく脱げにくい運動靴を履くなど、避難時に気を付けることを記載しました。

**水平避難**



安全な場所へ避難  
(避難場所、親戚の家など)

**余裕をもって避難できる場合**

**垂直避難**



丈夫な建物の2階以上、または近隣の高い建物へ避難

**避難する余裕がない場合**

**屋内避難**  
(斜面と反対側)



建物内の安全な場所へ避難  
(斜面など危険な場所の反対側の2階以上)

小学生編は令和2年2月に風水害編を追加改訂済み

**避難時に気を付けること**



① 長い棒などで足元を確認  
蓋が外れたマンホールや段差など見えない危険があるかもしれません。

② 靴は脱げにくい運動靴など  
長靴は中に水が入ってしまうと重くなり動きづらくなる可能性があります。

③ 避難の前に外の状況確認  
道路冠水が始まっているなど外に出るのが危険な場合は無理に避難場所に行かず「垂直避難」「屋内避難」をしましょう。

④ タオルや着替えも忘れずに  
大雨で、避難場所に着いた時にはびしょ濡れになっていることもあります。

⑤ 感染症対策を忘れずに  
避難場所には体温測定をしてから、マスクを着用して向かいましょう。

⑥ 食料や物資を用意しておこう  
風水害時は食料や水は自分で用意することが原則です。非常時の持出品を事前に準備しましょう。